

# 令和3年6月②学校長だより 高千穂高校

令和3年6月17日

高千穂高校を卒業され、現在母校で働いている先輩先生に「思い」を書いていただきました。

## 1. 「本校の就職状況とキャリア教育について」

興梠 勇二 先生（商業）

昭和63年度商業科の卒業生です。珠算（そろばん）が少しだけ得意だったという理由で、商業科を志望しました。高校時代は野球部に所属し、夏の甲子園県予選で選手宣誓をした思い出があります。大学で商業の教職免許を取得し、卒業と同時に宮崎県公立学校教員に採用されました。2校目の赴任地が高千穂高校で平成8年度から15年度まで勤務しました。現在2回目の勤務ですが、母校で2回も仕事ができることを嬉しく誇りに思っています。

就職指導（民間企業、公務員・自衛隊）およびキャリア教育を担当しています。民間企業への就職内定率は長年100%が続いています。これは高千穂高校の素晴らしい伝統だと思います。昨年（令和2年）の求人数は、延べ1,000件を超えました（令和元年から約120件増加）。公務員（自衛隊含）希望者には、専門学校や関係機関と連携した指導体制が確立しており、高い実績を残しています。

「地域で学び 地域を学ぶ」をスローガンにキャリア教育を進めています。地域と連携・協働を図りながら、将来、地域や社会の発展に貢献できる人材の育成を目標に展開しています。社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにする教育を推進していきたいと考えています。

## 2. 「負の感情に負けないで」

甲斐 有 先生（農業）

私は、高千穂高校の生産流科の前である「農業科」を卒業し、東京農業大学へ進学、様々な経緯を経て県職員として採用され、母校である高千穂高校へ赴任することとなりました。そんな私ですが、今高千穂高校の生徒として学んでいる皆さんに強く伝えたい事が、1つあります。

それは「恥ずかしい、自信がない、めんどくさい、等の負の感情に負けないでください」です。

どんな事に取り組むにしろ、この負の感情は、自分の足を自分で引っ張ります。大会で勝てません。成績が伸びません「結果」がついてきません。私も何度も何度も負けました。それでも様々な事をやりきったことが「結果」として今の私になっています。

経験者からのアドバイスは、苦しい時はゆっくりでいいので確りと学び、楽しい時はかみしめて今の自分を何かに残すと、高校生から大学生、社会人へととなっていく時の力となるはずです。

## 3. 「高千穂高校に帰ってきて」

興梠 宗真 先生（英語）

私は、平成27年に高千穂高校を卒業したOBです。昨年度まで大学に在籍しており、ご縁があって今年度から講師として高千穂高校に帰ってきました。生まれてから18年間育った地に少しでも恩返しができるよう、日々模索しながら業務に取りかかっています。私は大学で高千穂を出て、高千穂のよいところにたくさん気づくことができました。例えば、地域の方々の温かさがあります。町から出て、他人に挨拶をしないということに驚きました。高千穂なら当たり前のように笑顔で挨拶を返してくれる、そういったことはこの町ならではなんだ、と感じました。私は、高千穂は素晴らしい町だと思っています。高千穂でできないこともあるが、高千穂でしかできないこともあるということをより多くの生徒に伝えていきたいと思っています。私自身も、“高校の先生”としてだけではなく、“高千穂に住む人”として町の行事に関わってきたいです。

3名の先生方ありがとうございました。裏面には、九州・全国大会に出場する皆さんを掲載しました。